

私の工夫

やってみてみたい
3歳児の遊び
〜幼児の興味関心を捉えながら〜

倉敷市立老松幼稚園

教諭 岡山 愛



1 はじめに

本園は、各学年2クラスずつの6学級103名の大規模の幼稚園である。本学級は3歳児16名の学級である。大規模ということもあり、1学期間は安全面の配慮から4、5歳と3歳児の遊び場を区切って遊んでいた。4、5歳児と違い、集団生活の経験がなく、運動能力や思考力、表現力、言葉も未熟である。そのような幼児が、どのような遊びがふさわしいのか、楽しいと感じ、心はずませる遊びのか日々悩んできた。

幼稚園教育要領では、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とすると表

記されている。3歳児の発達や時期に合った、心はずむ楽しい遊びを展開していくためには、どのような環境構成や、教師の援助が必要なのか探っていきたい。

2 具体的な取り組み

① 忍者に変身

10月運動会の取組の中、年中児が踊っていた忍者のリズムを真似て喜んで踊る姿が見られた。忍者に興味をもっていることに気付く、学級でも、リズム遊びや、なりきり遊びを取り上げ楽しんだ。運動会後で、体を動かすことが楽しいと感じている今、忍者を用いても



忍者に変身しているところ

つと活動が楽しめないか考えた。巧技台を忍者の修行と称し、一本橋やはしご、平均台、蜘蛛の巣をくぐる、川をジャンプして飛び越えるなどの動きも取り入れ、学級で活動した。忍者をイメージする手裏剣を頭に付けて変身できるようにすると、なりきって繰り返し楽しむ姿が見られた。

② 遠足ごっこ

11月初めての遠足を体験する。みんなバスに乗ったことやお弁当を戸外で食べたことがとても楽



遠足ごっこをしているところ

しかったようで、遠足以降も「楽しかったね」「また行きたい」と話す姿が見られた。遠足が繰り返し楽しめるようにすることはできないだろうかと考え、遠足ごっこを学級で取り上げた。紙袋をリュックにしておいた物に絵を描き自分のリュックを作った。園にある弁当箱に秋の自然物（ドングリやまつぼっくり、千日紅など）を自分で詰め、椅子を2脚ずつ並べて、バスに見立てた。遠足のように、歌を歌ったり、クイズをしたりした後、戸外に行って歩いたり、シ



どんぐり風呂に入っているところ

ートを広げ、弁当をみんなで食べるふりをしたりして楽しんだ。活動後、「またしたい」という声があったので、好きな遊びもできるような引き続き環境を整えた。バスは段ボールで作り、どこでも遠足ごっこが楽しめるようにしていた。毎日遠足ごっこを楽しみむ幼児もおり、しばらく遊びが続いた。

③どんぐり風呂に入ろう

秋が深まり、ドングリに興味をもち、拾って園に持ってくる幼児の姿がたくさんあった。転がして

遊ぼうと教師もたくさん集め、タライに入れておいた。手で集めては落としたり、混ぜたりして感覚や音を楽しんでいた。そんなある日、一人の幼児が靴を抜いで、お風呂のようにタライの中に入った。周りの幼児の中には、「だめだよ」と止める幼児もいたが、教師は面白いと思い、「靴を脱いだら、入っても大丈夫だよ」と知らせた。教師の言葉に一瞬戸惑っていたが、「私もしたい」「代わって」と次々に面白がって入る姿が見られた。その後、小さなプールを出し、大勢が入って遊ぶことができた。環境を整え、どんぐり風呂ができた。

④羽根つきをしよう

3学期、年が明けてお正月遊びの環境を整えていた。コマは手回しコマがあるものの、羽根つきは4、5歳でも難しく、3歳児には無理だと諦めていた。何か変わる物はないかと風船を思いついた。羽根ではないが、風船なら大きさ

もあり、ゆっくりと落ちてくるので、3歳児でも楽しめるのではと思った。羽子板は牛乳パックで作り、勢いで飛んでも大丈夫なようにした。思うようには風船が飛んでいかなかったものの、羽子板には当たり、友達や教師と一緒に楽しむ姿が見られた。



風船で羽根つきをしているところ

3 おわりに

○園生活を経験する中で、幼児はいろいろな人や事象を見聞きし、

吸収している。いろいろな人や事象とのかかわりを大事にし、刺激が得られるようにしていきたい。

○遊びや活動を考える際には、教師の思いや考えだけでなく、幼児の興味や関心がどこにあるのかを捉え、幼児の言動や発言を逃さず見る目が必要である。

また、危険なことを除いて、幼児の言動から遊びが生まれたり、発展したりすることがある。幼児の言動を寛容に受け止めていく姿勢を今後も大切にしたい。

○幼児に無理なことやできないことをさせても、遊びや活動は楽しいものにはならない。幼児の発達を捉えることは教師にはかせない重要な責務である。今後、幼児の興味関心を捉えながら、楽しい保育を展開するために私なりの工夫をしていきたい。